

# 図書館だより

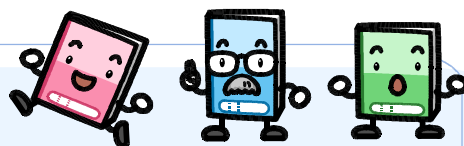


2021年11月号

2021年11月  
森村学園中高図書館

朝夕の気温が低くなり、本格的な冬の訪れを感じます。学校生活がほぼ以前に戻り、学校行事や部活動を楽しんでいることと思います。食欲の秋、スポーツの秋、そして読書の秋です。コロナ禍で遠のいていた図書館に、本を探しに来ませんか？  
休み時間や昼休み、放課後などの空いた時間に本を手にとってみてください。  
あなたの世界が広がる発見があるかもしれませんよ……。

## お知らせ



12月から、**森村学園中高電子図書館**を  
開設します！

森村学園中高等部のホームページから利用できる  
ようになります。

**電子図書館とは**……パソコンやタブレット端末・スマートフォンなどで、いつでも電子書籍を借りて読むことができ、期限がきたら自動的に返却されます。

いつでも・どこでも→**学校（実際の中高図書館）がお休みの時でも、本（電子書籍）が借りられます。**

（すでに借りられている本は予約ができます。）

ログインの仕方等は、後日お知らせします。

**電子図書館では、こんな本が読めます。**

話題の小説やエッセー

世の中の「今」を知る新書

知っておきたい古典文学（青空文庫）など

もちろんこれまで通り、校舎1階の中高図書館にも新しい本や雑誌が入ります。  
中高図書館&中高電子図書館、いずれも蔵書を充実させますのでぜひ利用してください！

# 先生インタビュー



## 南雲あき先生（高1学年主任・数学科担当）にお伺いしました

ミステリーがお好きですか？

子どもの頃はたくさんファンタジーを読んでいました。大人になって仕事を始め、しばらく本から離れていましたが、ある時、人と待ち合わせの時に、東野圭吾さんの本を買って読んだら、面白くて、はまってしまいました。夏休みだったので、そこから毎日1冊ずつ、1ヶ月で30冊読んだのです。毎日本屋へ行って、1冊買って……その頃出ていた本は全部読んでしまったので、次に宮部みゆき・乃南アサに行き……寝不足になりながら……でも止められなかった（笑） それからは仕事の合間にしか読めないで、そんなにたくさんは読めませんが。

東野圭吾さんって、理系の人なんですよ。『容疑者Xの献身』とか、トリックなども理系的なミステリーで、組み立てがしっかりしていて。論理的に考えられないとミステリーは書けないのだろうなと思います。

最近の作家では中山七里さんを読まれていますね

映画化された『護られなかった者たちへ』は悲しい話です。生活保護を受けている人が被害者で、犯人もまた悲しい人なので、読んでいて苦しくなるのですが、重たい社会性のある作品です。多作で振り幅が激しい作家なので、社会性のある作品から軽く読めるものまであります。『翼がなくても』は事故で左足を奪われたアスリートが関わるミステリーで、中山さんの作品はミステリーを主軸としながらも社会的メッセージが込められています。読書は普段自分があまり接しない世界に思いを寄せることができますね。『総理にされた男』はミステリーではありませんが、なんでお前はそんなことに巻き込まれるの？…という感じで、実に面白いですね。

担任を持つと学級文庫を置くようにしていて、できるだけ片寄りがないよう、＜本屋大賞＞や本屋さんが平積みにして薦めているような本にも、手を伸ばすようになりました。辻村深月さんの『かがみの孤城』は、以前からずっと気になっていたのですが、単行本だととても厚くて重いので、文庫になってから読んでみると、上巻の後半から結末が気になって、下巻は一気に読み終わってしまいました。中高生が読むと、気持ちの助けになるのではと思います。気持ちが苦しいなど思っている人はもちろんですが、普通に毎日学校で過ごしているような人にも、どこか感じる場所があるのではと思います。

このような話をクラスの生徒にも話されるのですか。

なかなかクラス全体に話す機会はありませんが、オンラインでホームルームをする際には、「今日のおすすめ」などと話していました。反応はどうだったかわかりませんが、学級文庫に私が読み終えた本を置いておくと、「あっ、それ読んだ」とか、感想が返ってきたり、「先生、これおすすめだよ」と言ってくれたりして、会話が弾みます。生徒から本を借りることもありますね。担任をすることで、本を読む幅が広がりました。

先生は数学がご専門ですよ。『博士の愛した数式』などは如何ですか。

読んでますよ。それ以外では『青の数学』というのがあって、数学の得意な高校生がPCの中で数学バトルをするんです。登場人物が自分たちで決めたルールに従ってバトルをする。難問をどれだけ早く解けるか、あるいは決められた時間にどれだけ多くの問題が解けるか。最終的には数学オリンピックが目標なのですが、そのなかで高校生として成長していく物語です。

物語がお好きなのですね。物語は映像化されることも多いですが、映画などもご覧になりますか。

映画で見るより文章を読む方が好きですね。文章は映像よりも幅があるからでしょう。映像の方が良い場合もありますが、妄想というか空想する際に、映像はリアルすぎて邪魔するときがあるんですね。ことばの世界の方が自分の想像力を広げられます。

それって、読書の本質に迫った話ですね。

マンガとアニメの関係もそうですよね。今のアニメーターの方々は凄くリアルに作ってくれるのですが、自分はマンガで読む際にいろいろ思い浮かべながら読んでるので、アニメ化する際に、ここはこういう風に作って欲しかったなと思うことがよくあります。別物として楽しめば良いのかもしれませんが。

大山淳子さんの『あずかりやさん』、これなら絶対映像化できないですね。だって、語り手がノミだったりするんです（笑）表紙のネコの絵がかわいいですね。私ネコ好きなんです。ネコ以外にも意外なものが語っていて、これ以上はネタバレになりますのでやめますが、何を視点に書いているかが面白いし、視点が変わるとこんな風に見える方も変わるんだというところが面白いですよ。ちゃんとした先生方が読むような本は読んでいないですね（笑）

教養あふれる本ばかりだったら頭の中が破裂してしまいます（笑）

クラスに本を置いておくと、授業に来た先生も借りてくれるんです。学級文庫は手に取りやすいんでしょうね。生徒も手に取って1冊読み終えてくれたら嬉しいなと思って置いています。

話は変わりますが、数学の先生は、よく数式のことを「美しい」とおっしゃいますよね。そこが文系の自分にはピンと来ないのですが……そんなに美しいですか。

美しいですよ。数学の先生方は必ず授業の中で美しいということばを使っていると思います。解き方と筋道は立っているけれど美しくない解答はあります。よりシンプルに、わかりやすく、余計なことなく解答できている状況がとても美しいんです。ぐちゃぐちゃだったら美しくない。最初は乱雑なものでも、もちろんそれを整理する過程で試行錯誤はするのだけれども、解答としてシンプルにまとめるということですね。生徒にはこう解答すると美しいねというと、「また出たよ」と言って笑いますね。

それって、物語ですよ。

相手に対して論理的に伝えるために辻褄を考えている過程は、ミステリーに繋がりますね（笑） 最初に問題があって、条件があって、それで問題を解いていくわけですから、ミステリーと変わらないと思います。

問題を一生懸命考えてやっと解けたと思って解答をみると、もっとシンプルに答えがあったりする。こんな時は敗北感を感じますね。衝撃を味わいます。

高校2、3年生になると生徒の解答の中にも、たまにハッとさせる解答をする子がいて、採点する際にもドキドキすることがあります。

**どこで数学の美しさに出会ったのですか。**

最初に感動したのは方程式です。算数では何本も式を作って答えに行き着くのが、方程式だったらXを使って一本で収まってしまふ、これって美しいですよ。なんて便利なんだと、算数は得意ではなかったのですが、数学に感動しました。

小学校で教わる鶴亀算などは、もちろんロジックはあるのですが、小学生が皆そのロジックを理解しているのかどうか、むしろ鶴亀算はこう解けといわれて解いているだけかもしれない。私は公式なども暗記しようとして覚えたことはありません。使っているうちに覚えてしまうものです。滅多に使わない公式は覚えられません。その際は導けば良いと思っています。覚えるべきものとそうでないものがあるんですよ。

**その通りですね。文章を書こうと思ったらできるだけ漢字を知っていた方がいい。いちいち辞書で調べていたらスピードが出ません。スピードが出ないと面白くないですしね。**

近頃の生徒の解答にはどうしてこんな間違いをするのだろうかと思うときがあります。糸偏と言偏を間違えたり。いろいろ便利なツールが出てきていますが、もっと手を使わないといけませんね。授業でも、図形をぱっと画面で見せたりするよりも、綺麗に一所懸命手書きをした時の方が生徒もよく受け止めてくれるので、黒板からも離れるわけにはいきませんね。図形を黒板にフリーハンドで描くのは見せ場でもありますしね（笑）

**数学の苦手な私にとって、普段触れることのない世界の話なので、とても興味深いです。**

本もそうですよね。なかなか触れる機会のないものに触れるのが魅力なんです。世界が広がります。湊かなえさんの『ブロードキャスト』は、高校の放送部がラジオドラマを作っていく話なのですが、作る楽しさを教えてくれるので、高校生にも勧めています。湊かなえさんの描く世界は、人間関係が入り組んでドロドロとしたものが多いのですが、この作品は青春モノで、こういう爽やかな話も書くんだとビックリします。

**森村は図書館がいらなくらい（？）学級文庫が充実していますね。**

それぞれクラスによって種類が異なって、担任の個性が良く出ていますね。それがまた面白いです。

**ご自宅も本で溢れているのではありませんか。**

そうですね。実家にもたくさんあって、それでコミュニケーションが広がっています。生徒同士、本を巡ってコミュニケーションが深まるといいですね。

**本日はお忙しい中、大変ありがとうございました。**

## インタビューの中で紹介された本

『容疑者Xの献身』 東野圭吾 文春文庫  
『護られなかった者たちへ』中山七里 宝島社文庫  
『翼がなくても』 中山七里 双葉文庫  
『総理にされた男』 中山七里 宝島社文庫  
『かがみの孤城』 辻村深月 ポプラ文庫  
『博士の愛した数式』 小川洋子 新潮文庫  
『青の数学』 王城夕紀 新潮文庫nex  
『あずかりやさん』 大山淳子 ポプラ文庫  
『ブロードキャスト』 湊かなえ 角川文庫

## 数学をテーマにした本



数学が好きな人も苦手と思う人も、その世界に入ってゆける小説はいかが？

『お任せ！数学屋さん』向井湘吾 ポプラ社  
『算法少女』 遠藤寛子 ちくま学芸文庫  
『数学ガール』 シリーズ 結城浩 SBクリエイティブ  
『数になりたかった皇帝 漢字と数の物語』 円満字二郎 岩波書店



中高図書館にあるものの中から選んでいます。